

## グローバルな知性をもたらす〈教育〉へ

もはや世界の視線を意識しないと、どんな〈教育〉もカタチにできない。  
特定の国や個人のメリットを追求するのは恐らく〈教育〉の仕事ではない。  
いま本当の意味でグローバルという知性が必要です。

グローバリゼーションの波、それは世界の至る所で〈教育〉のカタチを変化させています。過去 4 半世紀の間に〈教育〉は既成概念という殻を破り、大きく進化し続けました。いままさに学生も教育関係者も、自国の外に出て、様々な知識を得て、経験を積み、その成果を世界中と共有するという時代が到来しようとしています。この変化に対応して、英国を含む先進国の教育機関は、国内マーケットを超える場での活動を強めています。たとえば、世界のマーケットを意識したコースや資格を設ける。新機軸の研究プロジェクトや、教育スキルそのものを追求する。つまり、これまでにない視点から〈教育〉のカタチを掘り下げ、グローバルな時代に相応しいイノベーションを展開しています。

世界中で〈教育〉のカタチが変わりつつある。その動きは、グローバルな知性と経済が総体的に重要性を増していることの兆候といえます。いま、世界の様々な場面で、各国が自国の研究開発能力を高めるために、才気優れた〈個人〉をめぐる競争を繰り広げています。そしてひとりひとりの〈個人〉は、世界のマーケットで自らの価値をアピールするためにキャリアや生活スキルを身につけようとしています。リアルワールドで生き抜くために〈個人〉は自らの知性を磨く。激動するグローバリゼーションの波に対応するために〈教育〉はそのカタチを変える。その結果、経済は新領域を拓き、真の意味で発展を遂げていく。

考えてみるとそれは自然な流れです。グローバル経済の中で〈教育〉も〈個人〉も同時に新たな知性を手に入れる。富や繁栄は限られた人間や国家だけが享受するものではないはずです。私たちがくらす世界全体が継続的にグローバルな経済発展を遂げるために、〈教育〉と〈個人〉の関係はきわめて重要なのではないのでしょうか。

米英両国、さらにオーストラリアなど英語圏の国々は、世界の〈教育〉マーケットに早くから参入し、いずれも成功を収めてきました。たとえば英国は、自国の〈教育〉システム・サービスを諸外国に提供することにより、推定で年間 125 億ポンドの価値を創出しています(※1)。中でも最大の割合を占めるのが外国人留学生の受け入れであり、推定で年間 85 億ポンドに相当する経済効果を英国にもたらしています。まず、留学生を獲得する。彼ら彼女らに振り向いてもらう。それは、英国の初期の活動目的でした。世界の〈教育〉マーケットで積極的に活動するためには、才気あふれる人を集める。この事実は今も変わりません。

しかしマーケットは、そのペースを絶えず速め、決して立ち止まってはくれません。世界が英国を見つめる視線もまた変化を繰り返します。「英国は世界中から留学生を沢山迎え入れている、なぜだろう?」「英国が世界の〈教育〉に関心を抱くのは単に財政的な理由なのではないか?」「つまり英国は自国に集めた学生たちの出身国に何かを還元する気はまったくないのではないか?」。英国の懸念、それはネガティブなイメージの定着です。自国の利益を優先するあまり、諸外国へ暗黙のメッセージを発信してしまうことは、国際社会の中での英国のポジショニングと評価が大きく損なわれることを意味します。このため英国はマーケットに対するアプローチ、今後の方向性を大きく変化させる決断を下しました。

英国が築き上げた世界の中でのポジション。その価値を維持するために、英国は世界での〈教育〉活動のバランスを見直す道を選びました。英国が世界の市場を引き続きリードできるか否か。それはインターナショナルな評価と実績にますます左右されることになるでしょう。言い換えれば英国に限らず、諸外国からの視線を意識することが重要な時代なのです。英国の〈教育〉の質と価値だけの問題ではなく、世界に生きる様々な〈個人〉や〈国家〉への貢献度、そしてパートナーシップ意識が試されているのです。常に他者の視線を意識する。その重要性は日常生活でも世界のマーケットでもきっと変わらないのです。英国は制度や実践を含む〈教育〉のあらゆる側面で非常に

革新的で創造性にあふれ、最先端を走っていると考えられています。だからこそ英国は〈教育〉を世界的な視野で捉え、大きな課題に積極的に取り組み、知識と専門技術を活用してグローバルな考え方に大きく貢献する必要があります。そういった強い意志で〈教育〉に臨むことが、世界における英国のポジションに重大な影響を与えると自覚しています。そして英国の責任は、これまで以上に広範に渡る国際化のためのアクションプランを採択することに他なりません。つまり、留学生の募集、パートナーシップ、研究、能力開発といった各要素をバランスよく調和させたアクションプランです。

## グローバル視点の〈教育〉、その需要と持続可能

世界の視線を意識した、グローバルな観点から生み出される〈教育〉は、英国に財政上の大きなメリットをもたらすばかりではありません。英国の知性にチカラを与え、キャンパスと周辺の地域社会の生活に文化的な豊かさを提供します。その貢献度は計り知れず、これから先の貿易・外交関係を構築することに繋がります。

また、諸外国市民に〈教育〉を提供するという点では、英国は米国に次ぐ世界的リーダーです。ブリティッシュ・カウンシルの報告書『ビジョン 2020』<sup>2</sup> は、世界の〈教育〉マーケットが将来大きく成長することを示唆しています。しかしだからといって英国が現在のポジションを維持できるという保証はありません。世界の〈教育〉マーケットに新たに参入する国が増え続ける中、学生たちにとってはコースや留学先など選択肢が広がっています。それぞれの国の〈はたらく場〉において国際的な経験を積んだ人物が数多く求められるいま、学生たちはますます流動的になり、選択眼も厳しくなっています。どうしても英国で学びたい。そう思われる魅力を身に纏うために、英国の大学やカレッジはよりグローバルに視野を広げ、世界のステージで競争すると共に諸外国とのコラボレーションを進めています。

〈注〉

※1 “Global value: The value of UK education and training exports: an update” (パメラ・レントン経済学博士、シェフィールド大学、2007年9月:ブリティッシュ・カウンシルによる委託報告書)

## グローバルな〈教育〉を拓く、 英国首相主導政策(Prime Minister's Initiative: PMI)

1999年、ブレア首相(当時)は、英国で学ぶ外国人学生の増加を目指す政策構想(Prime Minister's Initiative: PMI)を打ち出しました。この首相主導政策は大きな成果を挙げ、外国人留学生を7万5,000人増やすという当初の目標を4万3,000人も上回る結果となりました(※3)。

PMIの成功をさらに進めるために、ブレア首相は政策の第2段階(PMI2)を2006年4月に導入。PMI2は5年計画で、投入される資金は総額3,000万ポンドに上り、世界の〈教育〉マーケットの変化を反映して、より戦略的にグローバルな観点から実施しています。PMI2の優先課題、それは英国を留学先に選ぶ外国人学生数を引き続き増やすことでした。しかし、諸外国とのパートナーシップの構築など、留学生の獲得とは別の目的をもった活動に一層重点が置かれています。

PMI2はPMIの成功を基盤として、より戦略的に多角的に活動するため、4つの大きな方向を新たに導き出しました。

- マーケティング・コミュニケーション戦略として、「Education UK」という包括的なブランドの元、世界的な〈教育〉のリーダーとして英国を位置づける。
- 現在、英国に多数の留学生を送り出している少数の国への依存を減らす。そのためマーケットの多様化を図る。
- 出願・ビザ申請手続きから学業の修了まで、留学環境のクオリティをすべての過程で保証する。
- 英国の大学・カレッジが海外の教育機関と協力関係を結ぶことを支援するなど、戦略的パートナーシップの構築を促進する。

〈注〉

※2 “Vision 2020: Forecasting International student mobility; a UK perspective”(ブリティッシュ・カウンシル、英国大学協会、豪 IDP エデュケーションが作成した報告書、2004 年)

※3 “Evaluation UK and PMI four years on”(英調査会社 MORI による研究調査、2003 年)

## 英国<教育>の経済的効果、その数値的価値の総計

- 教育・研修(システム・ノウハウ・サービス)の諸外国への提供により、125 億ポンド以上の経済効果が英国にもたらされた。
- 高等教育(HE)部門の外国人学生が英国経済にもたらす価値は 56 億ポンド以上に。(「国境を超える教育」を除く)
- 国境を超える高等教育が英国経済にもたらす価値は 2 億ポンド近くに。
- 高等教育部門の外国人学生(「国境を超える教育」を含む)が英国経済にもたらす価値は 60 億ポンド近くを記録。
- 継続教育(FE)部門の外国人学生が英国経済にもたらす価値は 12 億ポンド以上に。(英語教育を除く)
- 英語教育部門の外国人学生が英国経済にもたらす価値は 10 億ポンド以上に。
- 独立学校部門の外国人学生が英国経済にもたらす価値は 3 億 1,500 万ポンド近くに。
- 外国人学生が英国経済にもたらす価値は 85 億ポンド近く(※4)に。

## 英国<教育>における外国人学生数(※5)

部門	EU	EU 以外	合計
高等教育(HE)	126,740	249,450	376,190
継続教育(FE)	46,385	37,955	84,340
独立学校	4,915	15,940	20,850
計	178,040	303,345	481,380

上記に加え、英国で英語学習コースを受講している外国人学生数は推定 60 万人(正確な数については該当データなし)

## PMI 対象優先国

「オーストラリア」「バングラディッシュ」「カナダ」「中国(香港、台湾を含む)」「ガーナ」「ペルシア湾岸諸国」「インド」「インドネシア」「日本」「韓国」「マレーシア」「メキシコ」「ナイジェリア」「パキスタン」「ロシア」「シンガポール」「スリランカ」「タイ」「トルコ」「米国」「ベトナム」

〈注〉

※4 この数字には、高等教育(HE)の授業料、HEのその他費用、国境を超えるHE、その他のHE・継続教育(FE)の授業料、FEのその他の費用、その他のFE・英語教育の授業料、その他独立の初等・中等学校が含まれる。

※5 2006-2007年度のデータ。HEのデータは高等教育統計局(HESA)、FEのデータは学習技能評議会(LSC)、雇用学習省(DELN)、ウェールズ生涯教育記録(LLWR)、スコットランド継続教育資金助成審議会(SFEFC)によるもの。独立学校のデータは2006-2007年度の入学総数で、独立学校協会(Independent Schools Council:ISC)によるもの。EUとEU以外の内訳はISCのデータに基づいたブリ

ティッシュ・カウンシルによる推計。数字は5単位で四捨五入。これらの数字には英国に来る聴講生・交換留学生（IVES）も含まれる。